

ミーティングの 10のステップ



子どもたちとつくるミーティング（サークルタイム）を、10のステップに分けて詳しく見ていきます。
園で取り組む際には、まずは1つずつ、ステップを踏みながら進めていきましょう。
『保育ナビ』の毎月の連載では、現場の先生方からの疑問に、ステップごとに青山先生が答えています。
本資料と併せて、ご活用ください。

ステップ概要

ステップ0

本音を出せる環境があるか

ステップ1

集まる

ステップ2

耳を向ける

ステップ3

声を出す

ステップ4

傾聴する

ステップ5

話す

ステップ6

会話する

ステップ7

考える

ステップ8

意見を出す

ステップ9

考え合う

ステップ10

そしてまた暮らしへ

ステップ0

本音を出せる環境があるか

● 子どもは、思いを「からだまるごと」 表している

子どもは自分の思いを「からだまるごと」表しています。「あれもだめ、これもだめ」と注意ばかりしていると、おとなは行動を止めているだけに思えても、子どもにとっては「からだまるごと」表している思いを止められて、評価されていることとなります。教育・保育の場でおとなの声だけが大きい時は大体次の4パターン。指示、命令、禁止、評価です。

子どもがのびのびと自分を発揮できる環境や、それをたっぴりと受け止める間柄がおとなの間にあることが、ミーティングの基礎になります。「からだまるごと」で表している思いを、ミーティングでは言葉に置き換えていくだけだからです。

● 子どもが感じている気持ちを 共感しながら言葉にする

子どもがおとなの目線や評価を気にしないで、自分の本音を出せているか。保育者としては、子どもが心を打ち明け、託せるような人になれているか。表情、しぐさ、行動、子どもの言葉にならない声に耳を澄ませて、その思いに心を寄せながら保育をしていくことが、まずははじめの一歩です。痛そうにしているなら、「痛かったよねえ」、怒っていそうなら「今、怒ってるんだよね」と、子どもが感じているであろう気持ちに共感しながら言葉にしてみてください。だんだんと子どものほうでも自分の気持ちを言葉でも表すようになってきます。心があふれて言葉になる。そのために私たち保育者が子どもの隣にいる意味はとても大きいのです。